

令和5年度第1回松江市総合計画審議会(令和5年10月12日開催) 委員の事前意見と松江市の回答・見解等

通し番号	事前意見をいただいた委員	対象分野	意見主旨	松江市の回答・見解等
1		ひとづくり 分野07 共生社会、 地域コミュニティ	⑧要配慮者支援組織世帯カバー率【組織の活動範囲に含まれる世帯数/住基世帯数】 「要配慮者支援組織」のカバー率が気になりました。 KPIの「世帯数」は、年齢関係ない「世帯数」でよかったですでしょうか。 組織別にみると、実際のカバー力は足りそうでしょうか？(次のステップかもしれません)	要配慮者支援組織の設置は、自治会単位を基本としており、各組織では、平常時の見守り活動や研修会の開催、防災資器材の整備などが行われております。 組織ごとにカバーする配慮の必要な世帯数や世帯の年齢区分の把握は困難なため、KPIは地域全体の世帯数に対するカバー率としております。 今後も、組織設置・運営の支援により、普段から顔の見える関係づくりを促すとともに、活動の好事例の紹介を通して、町内会・自治会や自主防災組織などと連携した、地域での共助・支え合いの体制づくりを進めてまいります。
2	佐藤薫委員 (株式会社山陰合同銀行 地域振興部 副調査役)	デジタル田園都市国家構想交付金(旧地方創生推進交付金)を活用した事業の実施状況について	「松江工芸の魅力発信と担い手育成事業」 松江の工芸品のポテンシャルを感じます。 潜在的な(無自覚の)工芸品好きの方たちへのPR機会も増えるといいですね。ザ・工芸品コーナー、ではなくて。 店舗のシャッターが閉まったあとでも、工芸品を含む展示を見ながら歩ける工夫とか。	クラフトフェアだけでなく、市役所新庁舎で行われたマルシェやまつえ土曜夜市などに工芸品販売やワークショップとして出店しており、普段は工芸品に触れることのない多くの人たちに工芸品と触れあえる機会を創出しております。 また、直接店舗に行かなくてもいつでも工芸品を閲覧・購入できるように、工芸品を販売するECサイトを構築する予定です。
3		新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の効果検証について	コロナ禍で、こんなに手厚い交付金があったのかと改めて感謝申し上げます。 少しそれますが、松江市内のタクシーがつかまりにくくなったと感じている中、バスの減便ニュースもあり、市民もですが観光客の皆さんの移動手段がどうなっているのか気になります。貸切バス？レンタカー？	令和4年度に実施した観光地点アンケートによりますと、県外から訪れた観光客の65.2%が自家用車利用という結果でした。それ以外の航空機や鉄道を利用した方のうち、一定数はレンタカーを利用されていると推測しておりますが、実態の把握が難しく、把握できておりません。(一例として「ぐるっと松江レイクライン」は、令和4年中に延べ94,428人にご利用いただいております。)
4		ひとづくり 分野06 教育	③(小6)・(中3)地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある児童生徒の割合【全国学力・学習状況調査】 児童・生徒の意見を伝える方法は他にいろいろ考えられます。例えば映像等での発表を見せていただくだけでも(地域の研修会や文化祭の場を利用する)可能と考えます。児童・生徒の視点はとても参考になるため、学校に地域の方を招くだけでなく公民館等を使い多方面に情報発信させていただきたい。	地域課題について考えたことを発信する場として公民館など学校以外の場所を利用させていただける機会は、地域との交流も含め子どもたちにとって貴重な体験となります。 また、自分たちの考えが地域にとっても参考になることを伝えてもらうことは、児童生徒の学習意欲を高めることにもつながります。 いただいたご意見を学校側にも伝え、今後の学習活動のあり方について検討してまいります。
5	佐藤和彦委員 (松江市公民館長会 副会長)	つながりづくり 分野09 関係人口、 副業・兼業人材	①関係人口にまつわるイベントや交流会、講演会などに参加した人数【4月～3月】 分析されている通り、学生や若者グループが主体的に企画するイベントを支援する姿勢が良いと考えます。地元志向で地元若者がアイデアを企画し、運営することを大切に、地域はそれを後押しする形がよいと思います。	地元出身学生との関係づくりにフォーカスした「出身学生とのつながりづくり創出事業」を令和4年度から始め、学生が主体的に開催した「MATSUE学生祭2023」を企画段階から後方支援しました。 引き続き、学生や若者のアイデア実現や地域との接点づくりをサポートしてまいります。
6		つながりづくり 分野10 歴史・伝統・文化・芸術	②歴史・文化資源のまち歩き参加者数【4月～3月】 申込者総数は313名とありますが、初めて参加される方、新規で参加され始めた方などの総数はわかりますでしょうか？いつも同じ人が町歩きに参加されているのでは？と思っています。	申込者313名のうち、新規参加者の総数は157名であり、およそ半数が新規参加者となっております。
7	武部幸一郎委員 (松江圏域老人福祉施設協議会 会長)	どだいづくり 分野12 健康・医療	資料1の松江市の人口動態からもわかるように、松江市における人口減少、少子高齢化の中で、福祉・介護サービスの関連事業はコロナ禍及び物価高騰の影響等を受け、大変厳しい経営状況にあり、あわせてその担い手の確保も深刻な状況で本市においても大きな社会課題であると存じます。 また、2024年4月には診療報酬及び介護報酬等の同時改定を控えておりますが、地域包括ケアシステムは、より在宅生活の限界点を高める医療と介護・生活支援等の連携による切れ目のない支援が更に推進されていくと同時に、介護保険サービスの利用者負担は制度の改定の度に増加傾向であり、そのサービス利用については、限られた家計の財源から区分支給限度額の中で予防を含む、自立支援・重度化防止に資する質の高いサービスを利用し、くらしの継続を図ることが必要とされています。 こうした社会課題がある中で、質の高い福祉・介護サービス提供を継続していくための重要な手段の1つが、医療との連携を含めたDXの推進や業務の生産性向上です。利用者情報をデジタル化し、データを統合・可視化することでケアの質向上や業務の効率化が図れ、最近ではAIの活用による今後の状態予測から必要な対策をとることも始まっており、経験の浅い管理者や専門職の支援にもつながりつつあります。(医療・介護の連携における多職種連携による切れ目のない質の高いケアの推進につながることも期待されます) しかしながら、こうした取組みは事業者単一での実践では効果は小さく、医療・福祉・健康やくらしに関わる事業者がまちづくりとして一体的に進めることが重要であると存じます。松江市では多くの市民が医療・福祉を仕事としていると存じます。エッセンシャルワークでありながら、人材確保が厳しい業種であるからこそ、DX等の推進をしっかりと進めることで、社会課題を解決し、魅力的な地域をつくる、選ばれるまちづくりにつながると存じます。こうしたことに関して是非とも先進的にお取り組みいただきたいと存じますが、今後の松江市のお考えをお聞かせください。	ご意見いただきましたとおり、質の高い福祉・介護サービス提供を継続していくために必要となる生産性向上に向けて、事業所等におけるDXの導入は有効な手段であり、その効果として働きやすい職場の実現、人材の確保・定着が期待されるものと考えております。 本市としては、引き続き生産性の向上に資する最新動向や先進的事例を事業所等の皆さまと共有するセミナーの開催を通じ、各事業所等が抱える問題解決に資する介護ICT等の導入の促進を図ってまいります。 また、事業所等におけるDXの導入に際しては、福祉・介護の業務とDXに係るソフト・ハードに関する幅広い知識を有する職員の育成・確保が必要であり、これまで行ってきた職員のキャリアアップ支援と合わせ、介護ICTの導入・運用に当たってキーパーソンとなる人材の育成を支援してまいります。 なお、国において、医療・介護間の連携を強化していくため、自治体・利用者・介護事業所・医療期間等が介護情報等を電子的に閲覧できる情報基盤を整備しようと検討しており、その検討内容についても注視してまいります。

令和5年度第1回松江市総合計画審議会(令和5年10月12日開催) 委員の事前意見と松江市の回答・見解等

通し番号	事前意見をいただいた委員	対象分野	意見主旨	松江市の回答・見解等
8	竹田尚子委員 (松江NPOネットワーク 代表)	全体	ペーパーレスの取り組みは素晴らしいので、関連する施策のページを脚注的にリンクしては。 2022年度の評価から半年経過している。達成状況「×」だった項目について今期どのように取り組んでいるかも教えてほしい。	本市で使用しているタブレット端末では資料から別資料へリンクさせることは難しいですが、ホームページへのリンクについては検討の余地がございますので、委員の皆様にとっても、より見やすい資料となるよう、今後も継続的に工夫してまいります。 また、達成状況「×」であった項目の今期の取組状況については、「資料2別紙」における「結果の分析、課題、今後の方向性」をご参考ください。
9		ひとづくり 分野05 ワーク・ライフ・バランス、子育て支援	③子育てホームサポーターの数【累計】 ホームサポーターやデジタル化などの仕組みづくりも大切だが、行政が直接支えるには限界がある。支え合える子育て仲間に出会う・つくる・つながる活動を継続している市民活動の支援を。	現在、子育て支援センターでは、様々な親子の集まりや学習会を通して子育ての仲間づくりを支援しております。 また、サークルの取組について後援や情報交流の場を設け、活動のサポートを行っております。 ご意見いただきましたとおり、行政が直接行うことには限界がありますことから、今後もこのような取組による支援を拡げていきたいと考えております。
10		つながりづくり 分野09 関係人口、 副業・兼業人材	④ふるさと納税寄附者数【4月～3月】 ふるさと納税について、市外からの寄附の割合は。	令和4年度に本市にご寄附いただいた11,265名のうち、市外の寄附者は11,251名であり、割合としては99.88%でした。 ふるさと納税では、制度上市内の寄附者には返礼品をお送りできないため、このように市外からの寄附が全体のほぼ全てを占めております。 今後も寄附者数の増加に向けて、返礼品の充実の取組を進めてまいります。
11		デジタル田園都市国家構想交付金(旧地方創生推進交付金)を活用した事業の実施状況について	「“ご縁も、美肌も、しまねから。”～新たな魅力で人を呼び込む観光地域づくり～」 新幹線に乗車中、犬の散歩中の女性が手をふってくれて驚きつつとても嬉しかった経験がある。観光列車や堀川遊覧等の観光客に対する一般市民の歓迎行動について啓発は行わないか。	過去の例を調べてみますと、平成26年度に「堀川遊覧船に手を振ろう！」キャンペーンを実施しておりました。 当時も、旅先での何気ない市民との交流は、観光客の皆様にも荷物にならないお土産として心に残ることや、松江市民の皆様にもこれをきっかけに、大きなおもてなしはできなくとも、歓迎の心やおもてなしの気持ちはこんなところからも発信できると気づいていただける機会にしたいという思いから行われておりました。 新型コロナウイルス感染症の影響による観光客数減少からの回復を図るこのタイミングで、改めて呼び掛けてみたいと考えております。
12			「MATSUE起業エコシステム推進事業」 KPI③は達成率67%で「○」なのはどういう評価か。	達成率67%の評価については「○」ではなく「×」が正しい評価となり、資料の誤記となりますので、修正させていただきます。
13			「高校を核とした新たな人づくり・人の流れづくりプロジェクト」 市内や関東・関西地区などでの同窓会・同級会開催について、経済的あるいは運営の支援はあるか。あるとしたら活用度はどれほどか。	同窓会・同級会開催への経済的な支援は行っていませんが、本市が配置するコンソーシアムマネージャーなどを通じて、各学校の卒業生会等とのつながりづくりに取り組んでおります。 また、令和4年度から松江市出身の学生が主催する「MATSUE学生祭」の開催について、企画の段階から後方支援を行っております。
14			「松江工芸の魅力発信と担い手育成事業」 松江工芸の作り手育成の仕組みは、拠点整備のほかにもあるか。	「松江工芸の魅力発信と担い手育成事業」として、首都圏に販路をもつディレクターを配置し、工芸の作り手への情報提供・助言・販路開拓サポートを実施しております。 また、松江工芸の認知度を高め、地域ブランドとして定着させるとともに、新規商談成立や販売額を増加させるために、バイヤーや観光客にも選ばれる規模・コンセプトのクラフトフェアを開催しております。
15			「松江・森の演劇ゾーン整備計画」 2022年11月に開催されたが、来場者が-4,778なのはなぜか。	演劇鑑賞を目的としない方にもご来場いただき、演劇に接する機会を提供することを目的に、マルシェやコンサート等も開催しました。 しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響下でのイベント開催であったことから、想定よりも来場者数が伸びなかったものと考えております。
16		「24ForestPark ～24時間楽しめる24のコンテンツ～ 整備事業」 施設登録会員とは何か。会員数なのに単位が円なのはなぜか。	施設の利用促進を図るため、施設を新規にご利用いただく際に、会員登録をご案内しており、登録特典として、ご利用の際に会員バッチをご提示いただくとドリンクのサービスを実施しております。 また、会員数の単位は「円」ではなく「人」が正しい表記であり、資料の誤記となりますので、修正させていただきます。	
17		松江市のSDGs推進の現状について	カードゲームを体験し、かなり有効だと感じた。活用する機会を増やしてはどうか。	一般的に、SDGs達成のためには、プレイヤー同士の連携や情報共有による分野を超えた取組が必要になると言われております。 SDGsをテーマにしたカードゲームは、民間の研修ビジネスとしても普及・展開されてきていると承知しており、あらゆる分野が相互に関連し合い、身近な日常の行動に課題解決のヒントがあることを学ぶことから、普及啓発ツールとして意義は大変大きいと考えております。 本市としては現在、体験に長時間を要するカードゲームの方式ではなく、主に出前講座や広報媒体でのPRを通じてSDGsの普及促進に努めておりますが、今後はSDGsによる地域づくりを拡大強化するため、出前講座のメニューの一つとして実施できるよう工夫してまいります。